



# 若鷹だより

高山市立荘川中学校  
平成30年2月

## 小中一貫教育全国サミットに参加して

岡本 昌昭

先月末、京都へ行き、「第12回小中一貫教育全国サミット」に参加してきました。京都市は、市の教育委員会が主導して、市内すべての小中学校で小中一貫教育に取り組んでいました。

1日目の研修は、京都市内の学校見学でした。私の参観した学校は、2つの小学校が1つの中学校へ進学していくパターンの学校でした。2つの小学校の4年生が総合学習で地域について調べ学んだことを、一方の小学校に集まり、互いに発表し合い交流をしている授業を参観しました。また、中学校2年生が分かれて、2つの小学校に出向き小学校1年生に“読み聞かせ”をしている授業もありました。午後からは、2つの小学校の6年生が中学校に行き、音楽や英語の授業を受けている場面も参観しました。

こうして、2つの小学校が1つの中学校に進学して、仲間として学んでいくのです。そのために、同学年の交流や中学校の教室で共に授業を受ける機会をつくっているのです。ただし、互いの学校は、離れていて年にほんのわずかしか、このような授業が行えないということでした。

2日目の研修は、分科会でした。私の参加したところでは、山形県新庄市・新潟県三条市・京都市の学校の実践発表会がありました。その中で、京都市内の義務教育学校の実践発表が、特に印象的でした。その学校は、小学校と中学校が隣接していて、全校児童生徒が65人（荘川小中学校は84人）といった学校でした。荘川小中のように、地域の方の協力を得て郷土教育に力を入れ、1年生から9年生までを全教職員で指導しています。校舎が隣接しているので、教職員や児童生徒が行き来するのがスムーズにできています。この一貫教育を推進していくことによって、次のような成果がみられてきたそうです。

○地域の子どもが、他の京都市内の私立小・中学校に流出する数がほぼ『0』に。

○子ども一人ひとりの郷土に対する誇りと愛着が増してきた。さらに、8～9年生は、郷土学習を進めていく中で、地域活性化の具体的な提言を。

○地域住民の学校を核としたコミュニティの広がりなど。

今回の研修視察で、荘川地域で行ってきている保小中一貫教育は、かなりの水準にきていることを確信しました。今後、郷土に根ざした保小中一貫教育のより一層の充実に向けて、地域の皆様のご理解とご協力を賜りながら着実に進めていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。